

## 平成 24 年度国立吉備青少年自然の家教育事業

### 子育て支援ハートフルキャンプ

1 回目 平成 24 年 12 月 15 日 (土) ~ 17 日 (月)

2 回目 平成 25 年 2 月 16 日 (土) ~ 18 日 (月)

#### 1. 事業の目的 (趣旨・ねらい)

不登校などの子育ての悩みがある家族に応じたプログラムを提供し、その体験活動を通して、子育てについて考えたり、親子や参加者間、関係機関等との人間関係をつないだりして、子育て支援を行う。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期日

1 回目 平成 24 年 12 月 15 日 (土) ~ 12 月 17 日 (月)

2 回目 平成 25 年 2 月 16 日 (土) ~ 2 月 18 日 (月)

##### (2) 募集人員, 対象

子育てについての悩み(「不登校気味である」あるいは「現在不登校」等)がある小学生の保護者とその家族各回 10 組程度

##### (3) 参加者

< 1 回目 > 3 家族 8 人 (岡山県 2 家族 6 人, 広島県 1 家族 2 人)

	小学 2 年生	小学 4 年生	小学 5 年生	合計
子ども	1	1	1	3
保護者	2	1	1	4
兄弟姉妹	1	0	0	1
合計	4	2	2	8

< 2 回目 > 5 家族 14 人 (岡山県 4 家族 12 人, 広島県 1 家族 2 人)

	小学 2 年生	小学 3 年生	小学 4 年生	小学 5 年生	小学 5 年生	合計
子ども	1	1	1	1	1	5
保護者	1	2	1	1	1	6
兄弟姉妹	1	0	0	0	2	3
合計	3	3	2	2	4	14

##### (4) 講師

###### ・実行委員会

野崎 誠二 氏 (岡山県総合教育センター生徒指導部長)

渡邊 誠二 氏 (学校法人おかやま希望学園学園長)

村本 和孝 氏 (NPO 法人青少年自立支援リ☆スタート事務局長)

山下 弥生 氏 (財団法人河田病院リハビリ科ムーブメント療法室企画室室長)



## (2) 活動の状況



**初めてのツリーイング**

していたが安全管理と指導の面から全員が同じ活動をした。

保護者の活動では、講師の方から進路や生活、日々の対応など参加者の質問に対して的確に回答していただいた。

2日目のアウトドアクッキングでは、親子が協力してピザ生地を作り、ピザを焼いて楽しく食べた。調理から片付けまでゆったりとした時間の中で楽しい時間を過ごした。



**天体観察**



**日の出観察**

3家族とも参加した。

ツリーイングには、4家族12人とボランティアが参加した。午後のプログラム内容も少し変更して、基地作りを入れたり、鳥だけでなくいろいろな生き物を探したりするように広げた。夜の子どもの活動では、ナイトウォークに出かけたり、かさ袋

### (1回目)

ツリーイングには、3家族8人とボランティアが参加した。

初めて見る活動でギアをつけるだけで精一杯の子どももいたが、熱心に取り組んだ。開会式はやわらかい雰囲気になるように円形に椅子をならべて行った。午後の活動ではチャレンジタイムで作った作品をもってフィールドに出かけられるようにした。夜の子どもたちの活動は、選択活動に



**交流会**

片付けも協力して行うことができた。

午後の活動も続けたいと2家族が申し出ていたので、継続して1日目の活動の続きを行った。閉会式も和やかな雰囲気の中で行った。夜は1家族ということもあり、ゆったりと過ごしたいとの希望があり、天体観察の後はカードゲームをして過ごした。天気も良く、満天の星空に感嘆の声が上がった。

3日目の朝、ボランティアの声掛けから朝日を見ることになった。日の出を今か今かと待ち、太陽が顔を出す瞬間には歓声が上がるほどだった。アウトドアクッキングはローストチキンとロールパンを作った。参加者の好物とあって調理から焼き上がりまでを楽しく待つことができた。

全ての片付けを終えて閉会式を行った。

### (2回目)

2回目にも続けて



**慣れたツリーイング**



でロケットを作ったりして楽しんだ。

保護者の活動では、講師の先生方に不登校の児童が参加できる活動について情報を提供していただいたり、生活の相談をしていただいたりした。

2日目のアウトドアクッキング「ローストチキン&ロールパン」では、交代でパンの生地をこねたり、野菜を切ったりと親子で協力して調理することができた。調理後閉会式を臨まれる家族があったため、午後の活動の前に全員で閉会式を行った。午後の活動では、時間の許す限り活動していただき三々五々解散とする形にした。片付けに時間がかかったこともあり、森のスタジアムのアスレチックを行った。子ども同士関わり合いながら楽しく過ごすことができた。

3日目は1家族だけの参加となった。天候が悪く雨となったが、アウトドアクッキング「手打ちうどん&春の七草の天ぷら」を行なった。親子で交代しながら生地を脚でふんだり延ばしたりしながら親子でうどんを作っていた。生地を寝かす間にフィールドに出かけて野草を摘んだ。

種類は少なかったが、丁寧に洗って天ぷらやかき揚げにすることができた。



基地作り



凧作り



## 4. 成果・課題

### (1) 成果

- ・活動を通して保護者も子どもも元気な声と笑顔が数多く見られた。活動や休憩・食事の時間には参加者同士がうちとけて交流する姿が見られた。
- ・参加した児童が活動する際、思っていた活動とは勝手が違って、活動をするのができなくなっても、選択肢があることでできそうな活動を自分で選んで活動することができたので良かった。
- ・低学年、幼児でも活動することができるように、作り方の手順や遊び方を示すことで飽きずに活動を続けることができた。

- ・クラフト（室内）からフィールドへと活動のつながりをもたせることで、活動への意欲が連続して高まっていく様子を見ることができた。
- ・基地づくりでは、大人の手が多く入り、子どもだけの活動にならなかったが、作り方を見習いながら、時間の経過とともに子どもの思いが少しずつ形になっていった。時間が来ても終わることができなくなるほど基地への思いは大きくふくらんでいた。近くを歩く他の児童を基地に誘うほど至極気に入ったようだった。
- ・キャンプ最初の活動であるツリーイングでは、初めての体験に戸惑い参観するだけになった参加者もいたが、多くの参加者は積極的にロープを登ることができた。普段見せない様子を垣間見て、保護者の中には子どもの積極性に驚いたり、頑張る姿に感動を得たりしていた。また、普段の生活では手をかけすぎている部分も、活動を通してふりかえることができたようだ。
- ・夜の活動の中で、参加した児童同士年齢の高い児童が、低い児童の面倒をみながら上手にボードゲームを進めることができていた。年齢の低い児童は渋々でも聞き入れて最後までゲームを続けることができた。
- ・保護者間では交流会の中で講師の方の話を通して、現状の理解や対応について意見交換することができていた。どの関係機関へも質問があり、短い時間だったが、充実した交流会ができた。

## （２）参加者の声

### （１回目）

- ・子どもの参加者が少なかったので、サポートが充実していて助かりました。もし、１０組一杯で来られていたら今回のようにはいかなかったかなと思いました。
- ・子どもが基地作りを楽しみすぎて、閉会の時間を過ぎてしまいました。すみません。次回は前日に作って、後日も遊べるともっと喜ぶと思います。
- ・前回より参加家族が少ない分、手を抜くことなく運営していただき有り難かった。
- ・スタッフ、ボランティアの方々には本当に感謝です。
- ・とてもみなさんが熱心にしてくれてありがたいなあと感じました。また、ぜひ参加させて欲しいと思いました。

### （２回目）

- ・皆様子どもたちの気持ちに寄り添う姿勢が伝わってきました。学校の外には自分が受け入れられる場所があると意識できることはとても大切だと思います。こういったイベントがあって本当にありがたいです。
- ・全体的に満足です。県外からの参加で肩身が狭い面がありますが、名前のおりハートフルな対応をしてくださって助かっています。参加できていないのですが、三日間あるのは良いと思います。二日目くらいから緊張がほぐれて色々な方と仲良くなってくるので…。
- ・親にとっても勉強になる。先生方のアドバイスは的確で分かりやすい。他の家族やボランティアの方の対応を見ているだけで勉強になる。今後も継続して勉強したい。
- ・時間的にも詰め込みではなく、ゆとりのあるスケジュールで良かった。選択活動、ツリーイング、アウトドアクッキングと色々なプログラムを体験できて良かったです。
- ・本人が自信のもてる声掛け、指導をしていただけてとても良かったです。本人がくじけそ

うになっている時などタイミングよく声かけをしてもらって。ずいぶん頑張れました。ボランティアのお兄さん・お姉さんのことが大好きです。

- ・一年ぶりの参加でも、ほぼボランティアさんの顔ぶれが同じでありがたかったです。子どもたちをよく見てくださって対応して下さったのが本当にうれしかったです。親の私も子どもの成長を垣間見ることができて心からうれしい時間でした。また参加したいです。
- ・皆さんが本当に丁寧に子どもと付き合ってくれてとてもよい時間が過ごせました。いろいろなことに参加させてくれて、ときにパニックになってもそれに付き合ってくれて、普通の子と同じように学校に行けてないけど、皆さんと会うことができよかったです。出だしからハプニング続きでどうなるかと思いましたが、こまを持って来てくれたり、居場所をつくってくれたりボランティアさんが一緒に過ごしてくれたり本当に心温まりました。

### (3) 今後の課題等

- ・広報活動では青少年教育施設の少ない県北を中心に直接教育委員会や適応指導教室を回った。それぞれの地域によって差はあるが、不登校や子育てで悩まれている家庭が少しでもこの事業に参加できるようにしたいと思った。県北は公共交通機関が国立吉備青少年自然の家までつながっておらず、参加しにくい状況があることから対応を考えて行きたい。
- ・学校の授業日の居場所を探されている方が多く居ることを知った。開催期間についても検討していきたい。

担当：企画指導専門職 宇江 賢